

新装版 のばらの村のものがたり
BRAMBLY HEDGE

小川のほとりで



ジル・パークレム 作 岸田衿子 訳

のぼらの村のものか

小川のほとりで

ジル・バークレム 作 岸田衿子 訳



講談社

著者紹介

ジル・パークレム (作・絵)

1951年にロンドン郊外にあるエピングの森の近くで生まれた。ロンドンのセント・マーチンズ美術学院に学んだが、毎日ロンドン市内に通学するうちに、エピングの豊かな自然と生活をあらためて見直すようになり、それが『のばらの村のものがたり』シリーズとして実を結んだ。

1981年度第16回世界絵本作家原画展（至光社、丸善共催）みみずく賞、1982年度ボローニャ国際児童図書展エルバ賞を受賞。

岸田 衿子 (訳)

東京で生まれた。東京芸術大学油絵科卒業。詩人・童話作家。詩集に『ソナチネの木』、エッセイ集に『草色の切符を買って』、絵本・童話に『かばくん』『ジオジオのパンやさん』、訳書に『どろんこぶた』『カントリー・ダイアリー』『のばらの村のものがたり』シリーズなどがある。

第21回サンケイ児童出版文化賞大賞、ドイツ児童図書賞などを受賞。

新装版 のばらの村のものがたり② ^{おかわ} 小川のほとりで N.D.C.726 32p 18cm

1996年7月10日 第1刷発行	発行者 野間佐和子
	発行者 株式会社 講談社
	東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号112-01
	電話 東京(03)5395-3534(編集部)
作 ジル・パークレム	東京(03)5395-3625(販売部)
訳 岸田衿子(監訳 前田豊司)	東京(03)5395-3615(製作部)

落丁本・乱丁本は、講談社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にておとりかえいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、児童局幼児図書出版部あてにお願いします。

本書の無断複製(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

定価はカバーに表示してあります。

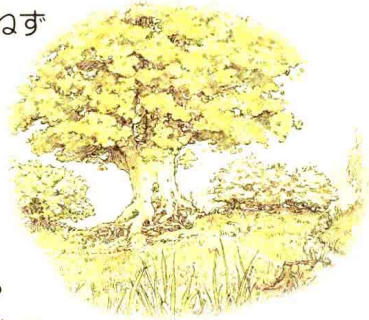
©Eriko Kishida 1996

Printed in Italy

ISBN4-06-187888-3 (見込)

のぼらの村のねずみたち

小川のむこうの草原にそってつづく、細かくからみあった
いけがきが、のぼらの村です。ねず
みたちは、昔から木の根や幹を
すみかにしています。



のぼらの村のねずみたちは、い
そがしい毎日をすごしています。

いい天気がつづく、ねずみたちは、
いけがきや、まわりの草原で、花や木の実を集め、おいし
いジャムや、ピクルスや、さとうづけにして、
冬にそなえて、きりかぶ倉にしまいます。



ねずみたちは、みんな働き者ですが、楽し
く時をすごすこともわすれません。四季お
りおりに集まっては、お祭りやパーティーを
開くのがだいすきで、子ねずみの誕生日だろうと、待ちに
待った結婚式だろうと、春のさいしょの日だろうと、かな
らず、みんなで集まって、
お祝いをするのです。





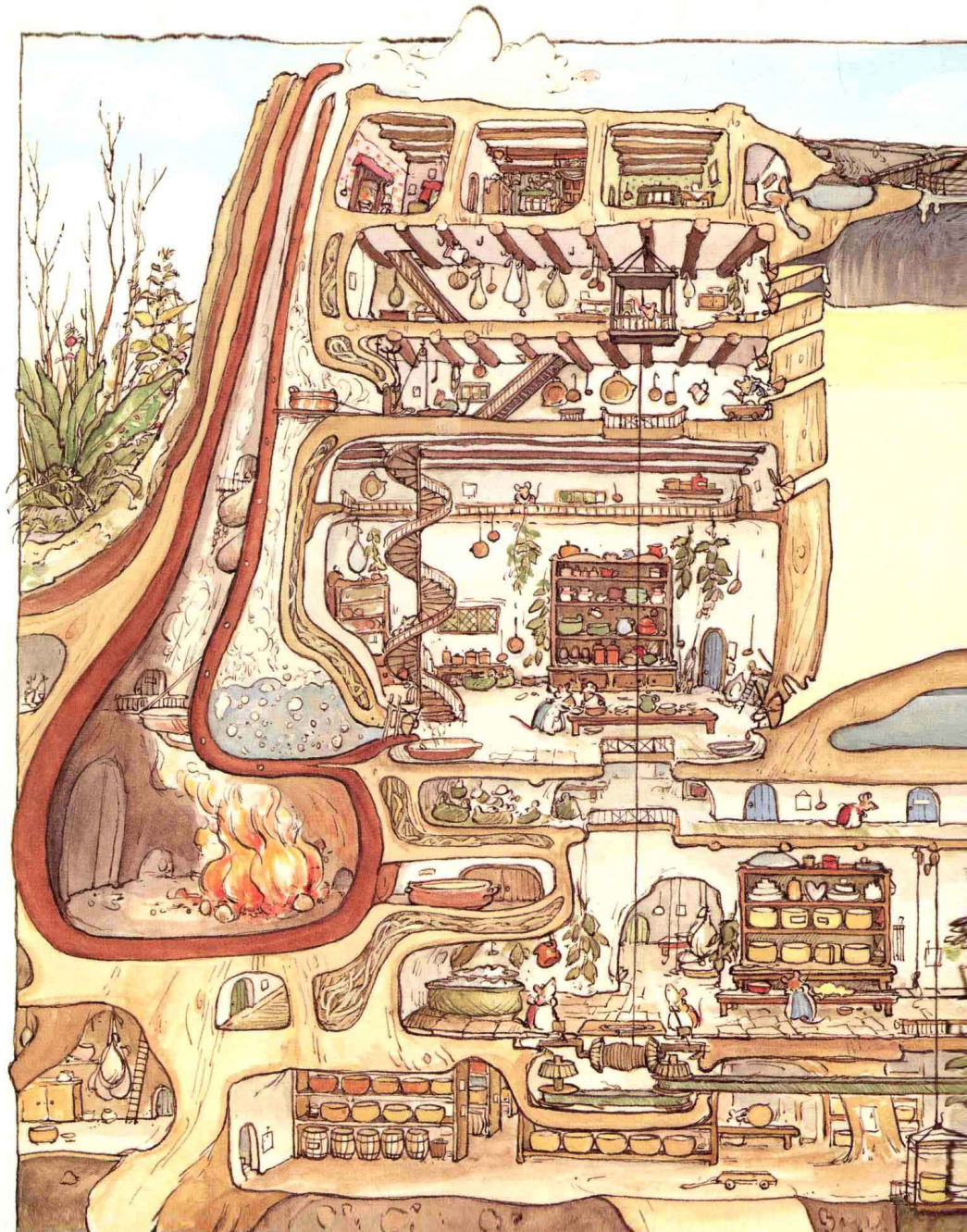
とても^{あつ}暑い夏でした。

毎日、お日さまは青空に高く、野原は、強い日ざしで、
かげろうがゆれています。

のぼらの村は、どこもすずかです。ねずみたちは、す
ずみたいので、木かげの家でじっとしていました。



外でいちばんいい場所は、小川のほとりです。ねずみ
たちは、午後になるとそこへやってきて、土手の下の木
かげにすわって、足やしっぽをきれいな水の中に入れて、
ゆらゆらさせていました。



小川の土手には、粉ひき小屋とチーズ小屋がありました。水の^{なが}流れでまわる水車が、のぼらの村の家の^{こな}粉をひき、バターをかきまぜるのです。

チーズ小屋の仕事をひきうけているのは、ポピー・アイブライトです。ポピーは、友だちのめうしたちがきげんよくわけてくれたミルクを、大きなおけにためておくせわをしています。チーズの水切りをして^{かた}型をつくり、けむりでいぶしたりつつんだりするための^{りょうりべや}料理部屋がいくつもあって、これもポピーの^{やくめ}役目でした。



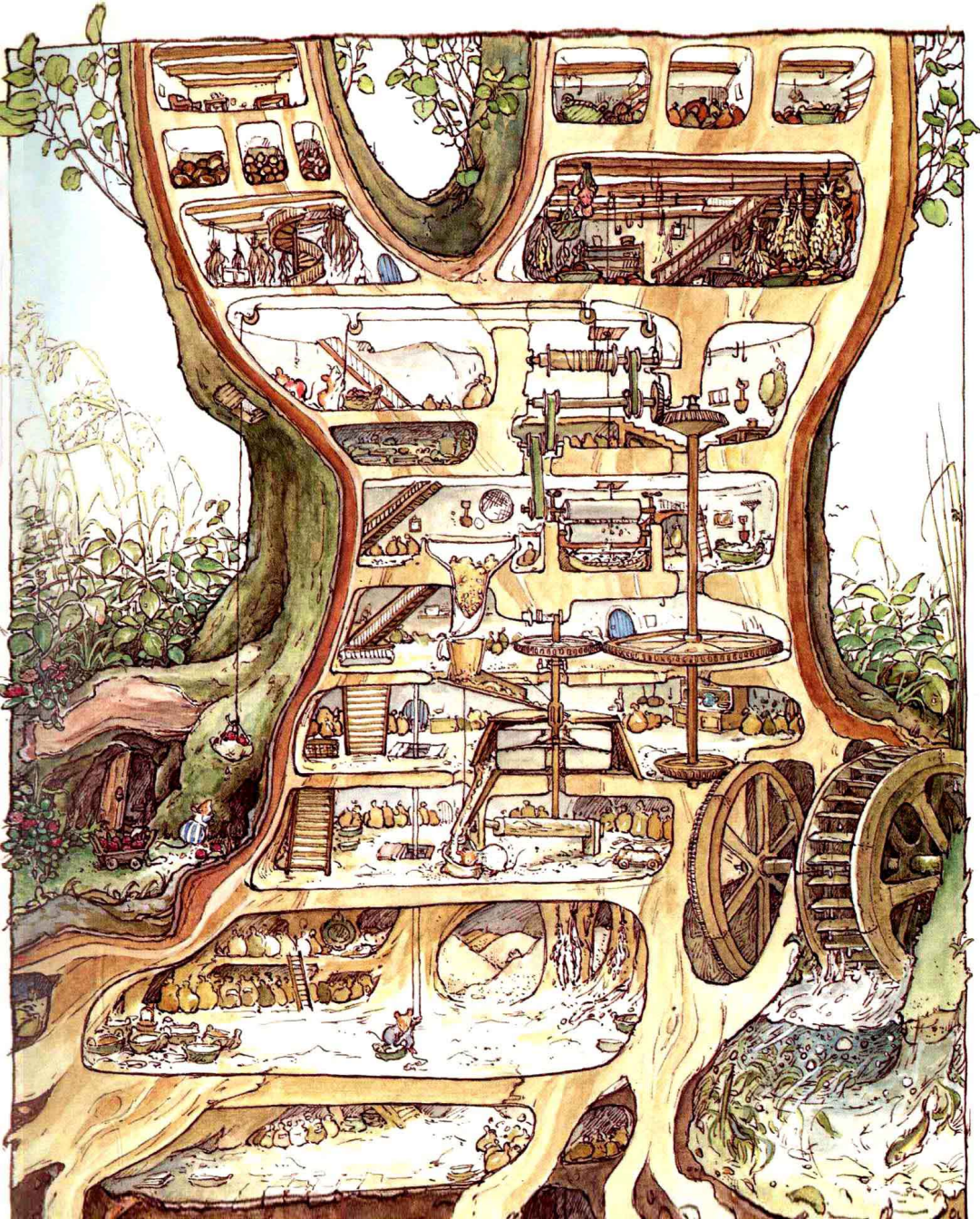


ポピーは、暑い日はすきではありません。だいじなバターは、つめたいすかんぼの葉でつつんでおかないと、とけはじめるし、クリームをつぼは、くさらないように、水の中にひたしておかねばなりません。

仕事がおわると、ポピーは水車のそばを歩きまわり、つめたいしぶきをあびてすずみます。

ずっと小川の下手にある粉ひき小屋では、粉屋のダスティ・ダッグウッドがはたらいています。ダッグウッドがみょうじですが、ダスティとよばれているのは、いつもしっぽの先からひげの先まで粉だらけだからです。







ダスティは代々粉ひき小屋ではたらいていたお父さん、おじいさん、ひいおじいさんとおなじように、陽気で気だてのいいねずみでした。天気の良い日がだいすきで、小川のほとりをいったりきたりして、ぱちゃぱちゃ水遊びをしているなかまとおしゃべりをしました。

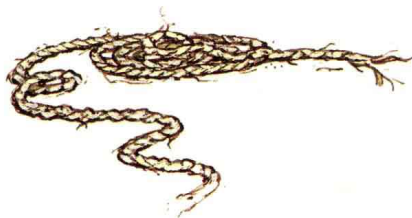
散歩のとき、チーズ小屋のところで岸辺にたっているポピーに会うと、とてもきれいだなと思いました。長くて暑い日がつづくうちに、ダスティは、ますますチーズ小屋のほうへ散歩するようになり、ポピーも、水車のこけのはえた日かげですずむことが多くなり……。

6月のはじめ、ミス ポピー・アイブライトとミスター ダスティ・ダッグウッドは、^{せいしき}正式に^{こんやく}婚約を^{はっぴょう}発表しました。のぼらの村のねずみたちは、みんなとてもよろこびました。



結婚式^{けっこんしき}は夏至^{げし}まつりの日をえらび、すぐにしたくにとりかかりました。それまでかならずお天気はつづく^{けっこんしき}とボビーがいうので、結婚式^{けっこんしき}は小川^{かわ}ですることにまりました。いちばんすずしいところだし、とてもロマンチックでしたから。

ダスティが、森で大きなひらたい木の皮^{かわ}をみつけ、みんなでそれを小川^{かわ}まで運びました。すこしてこずりましたが、なんとか水車のすぐ下のところで、とうしんそうといらくさをあんだなわでつないで、川のまんなかにうかべました。





ホビーは、よめいりじたくにとりかかりました。午後はいつも、高いりゅうきんかのかけにすわって、ウエディングドレスにししゅうをしました。だれかが通りかかると、ホビーはすぐそれをかくしました。



とうとう結婚式けっこんしきの日がきました。空は青く晴れわたり、い
つもよりもっと暑い日あつでした。のばらの村の台所だいどころは、どこも
大いそがしです。つめたい夏のごちそうをつくるのです。ひ
やしたクレソンのスープ、たんぼぼのサラダ、はちみつのク
リーム、シラバブもメレンゲもありました。

わかいねずみたちは、朝早く、
大きなごになんばいもの
いちごをつんできました。



バジルは、さくらそうと、しもつけそうと、にわたこの白
ワインをえらんで、とうしんそうのあいだの水にひやしまし
た。バジルは、きりかぶ^{ぐら}倉の地下の酒倉^{さかぐら}の番人^{ぼんにん}でした。がっ
しりとした気のいいねずみで、長い白いひげをはやして、い
いワインをかぎ^{はな}わける、かんのいい鼻^もを持っていました。



チーズ小屋^{ごや}の上の自分の部屋^{へや}で、ホヒーは、ていねいに着^きつけをしました。ひけをみかき、耳^{みみ}のうしろにはら香水^{こうすい}をつけました。もりねすみだんしゃく^{ふじん}夫人^{ふじん}か花かざりをつけてくれたまわらほうしか、ベッドの柱^{はしら}にかけてあるし、出窓^{でまど}には花よめの持つ花たはか^もがあります。洋服^{ようふく}だんすのひかひかのドアに自分のすかたをうつして、ホヒーはため息^{ためいき}をつき、かけあして下^{した}におりて、花よめのつきぞいのところへいきました。

